



学校便り 5月号

# かけはし

薩摩川内市立里小学校 薩摩川内市里町里 1601 TEL 09969-3-2008  
発行 令和6年5月21日 責任者 校長 永野 俊也

学校 HP



学校ブログ



里周辺海水温  
23℃(5/12)



## 止まらぬ円安と日本の未来、そして子供たちの学び

5月全校朝会の話より

校長 永野 俊也

今月は、GW明けの5/7全校朝会で子供たちに話した「円安」の話題を取り上げてみたいと思います。小学生でもわかる？経済のお話です。

「今、ニュースで円安という言葉が出ているのを聞いたことがある人～」と投げかけてみました。ぽつぽつと反応がありました。「10数年前、私が海外へ海の勉強に出ていたころは円高で、1ドル100円弱でしたが、それがわずか10年後の今では1ドルのものを買うのに150円以上払わないといけなくなりました。さあ、みんなが大人になったときは、どうなっているのでしょうか？」

今教育の世界も新しい時代、まさに今訪れている激しい変化に対応するため、どんどんその内容が更新されています。その一つである小学校から始まった学習指導要領の改定が、2年前の高等学校の改定で、区切りを迎えました。高校の大きな変化の一つに、社会科の中に**公共**という教科が新設され必修となりました。そこでは選挙権の18歳への引き下げや、グローバル経済へ対応する力を育てるために、主権者教育、消費者教育、金融教育など、大人世代が経験していない学びの分野が組み込まれるようになりました。若い世代では**投資**についても、基礎知識を持ち対応できる力を育てていくこととなります。そう考えると、子供たちの将来の指針となるよう、なんらかのヒントを小学校段階でも置く必要があるのではないかと、そういうことを考えるようになりました。そこで、GWは「なぜ今円安なのか？」というテーマを自分に課し、勉強してみました。すると、グローバル経済の中で世界の投資家たちは今の日本をどう評価しているのかや、日本銀行はなぜ金利の引き上げに簡単に踏み切れないのか、急激な円安に対し日銀が為替介入に踏み切ったはずなのにそれを公にしない理由など、少しずつ見えてきました。もちろん子供たちにはそのことはふれず、上記の投げかけをただです。そういう中確信的に言えること、子供たちの未来に求められることは、**イノベーション**（経済発展の一因としての技術革新）であるということ。そして、そのために広い視野と学びの力を育てることが教育に強く求められていると、より強く感じるようになりました。

さて、私の話は次の話題に転じます。「ところでみんな、小学校6年間で習う漢字は、何個あるでしょう？」(答え 1026個)「では中学校3年間では？」(答え 1100個)「中学校に入学すると英語では単語を書けるようにならないといけません。果たして何個覚えられないといけませんか？」(答え 1800個)慣れている漢字だけでも、倍のペースで覚えていかなければならない上に、英単語も親世代の倍の個数を消化し、活用できるようになることが求められます。もちろんその他の教科の学びも質量ともに増しますから、中学校教員をしていた私の経験では、学校での学びを確実に定着させ使いこなせるようになるには、家に帰っても120分、2時間は自ら学ぶ習慣を身に付ける必要があると考えています。小学生には、「中学校に入学するまでに、少しずつ自分から『家でも勉強しよう』という習慣を身に付けることが大切です」と話をして終わりました。学びは、興味や目標、目的をもてば必然的に**主体的**となります。先生方も、子供たちがより探求心を持って学習に取り組めるよう、授業改善に取り組んでくれています。里に来て4年目となりますが、子供たちの素直さや素敵な感性、地域の温かさなど、しみじみと感じることは当初より変わりません。その中で、「次の時代を明るく照らすために学びの力をもっともっつけさせたい。」と残りの時間が少なくなる中でより強く思うようになっていきます。このことについて、別の機会にまたふれたいと思います。

(朝会の最初に話した←に関する話題も機会があれば別の号で、) つづく



## 令和6年度のPTA役員が決定しました

4月22日(月)に、PTA総会が行われ、令和6年度の新たな役員及び活動計画が承認されました。今年度は、PTA組織変更後の初年度の活動となります。各部の人数を減らしての活動となりますが、皆様の御協力をよろしくお願い致します。

一年間、皆様の御協力をよろしくお願い致します。

会長	西 蘭 中	副会長	岸 和博、三枝 亜沙美
書記	森山 慎一	会計	高橋 健太郎
顧問	永野 俊也	監査	中学校P会長・副会長
生活指導部 (地域代議員)	部長 齊藤 智頭 副部長 谷口 慎吾	保体事業部	部長 塩田 健介 副部長 川崎 誠
研究広報部	部長 庵地 優 副部長 大井 隆之		
1年代議員	石原 昭美	2年代議員	小川 真希
3年代議員	長井 里沙	4年代議員	山下 麻由
5年代議員	馬場 卓	6年代議員	石原 光

## スケッチ大会頑張りました!

5月11日(土)は、全児童でスケッチ大会を行いました。天候にもめぐまれ、あたたかな初夏の日差しの中で、3~6年生は港や八幡神社前、一の段などでスケッチを行いました。1・2年生は、活動したことを教室で絵にしました。この後は、学級で着色を行い、完成を目指します。



## 6月行事

- 3日(月) 読書旬間(~14日)
- 5日(水) 小中合同研修会(鹿島小)
- 8日(土) 土曜授業日  
海岸清掃(ふるコミュ)  
避難訓練(大雨)
- 9日(日) 耳鼻科検診(里公民館、9:50~)
- 11日(火) 生活リズム週間(~17日)
- 12日(水) 委員会活動
- 13日(木) かのこゆり号来校
- 14日(金) スクールカウンセラー来校
- 18日(火) 里の魚から学ぼう(ふるコミュ)
- 26日(水) クラブ活動
- 27日(木) 中期ふるコミュ(5・6年)
- 28日(金) 着衣水泳



## 「親子の絆」コーナー

\* 今月より家庭の様子等を紹介するコーナーを新設します。

「慰霊之塔修復作業に参加して」 長井章吾さん・夢空さん

慰霊之塔修復作業に親子で参加して、名前を塗る貴重な体験をしました。「これからは戦争のない日本でありますように」と願いながら塗りました。

ゆあ：手をあわせて、がんばってぬりました。

\* 他にも鮫島陽香さん宅もご家族で参加いただきました。ご協力ありがとうございました。



慰霊之塔修復の様子

# 今月の付録

## 九州の旧石器人を瞬殺した 始良カルデラの破局噴火！

～甌島 縄文人の起源を考える！～ (その2)

今月は、九州にあるかつて破局噴火を起こしたカルデラの歴史についてふれていきます。義務教育で習う歴史の時間軸からかなり離れ、遡りますから、記念誌では、36,37 pを参照してください。そこを見れば、これからお話する地球史の位置づけや、その時代の日本列島の地理的形狀が把握できるはずで、では、カルデラの歴史を遡る前に人類史を少しだけ整理します。

親世代では歴史の教科書ではじめの頃、四大文明と習ったと思うのですが、そういう歴史認識、実は日本と中国ぐらいで、世界的にはまったく通用しません（今では教科書からも消えています）。国際的には「文明のゆりかご」(Cradle of civilization)という言葉で、もっと幅広くとらえられています。近年では、1996年 S・P・ハティントンの著書「文明の衝突」による考えに基づき7～9の文明区分で考えられることが多くなり、その中では日本文明も日本一国のみで成立する孤立文明として数えられています。

かつて四大文明と呼ばれていた時代が、紀元前 4000～年頃からですから、今からおよそ 6000 年ほど前の話です。前号で紹介した鬼界カルデラ噴火が 7300 年前です。世界に先駆け土器を作り、世界の歴史区分の中石器時代、新石器時代からはずれ、独自の時代区分で語られるようになった縄文時代は、現段階で 1万 6000 年まで遡ることができます。日本では、それ以前が旧石器時代となりますが、その始まりは諸説あります。しかしどの説をとっても、およそ 4 万年前には確実にナウマンゾウなどを追って、旧石器人が日本に渡ってきていることとなります。これらのことを踏まえ、九州のカルデラの歴史をみてみましょう。古い時代から記載していきます。なお、カルデラは数回噴火を繰り返すことが多いのですが、最後の破局噴火の年代で記載していきます。



出所：井村隆介「日本生態学会誌66」

52～53 万年	小林カルデラ	総噴出量 156km <sup>3</sup>	* ほぼ隣にある二つのカルデラを、図では加久藤カルデラとまとめています。時代が古いので、カルデラ地形はかなり浸食され、霧島連峰はその縁にあたります。
33～34 万年	加久藤カルデラ	総噴出量 50～156km <sup>3</sup>	
10.5 万年前	阿多カルデラ	総噴出量 188km <sup>3</sup>	* 昔、指宿カルデラと習った記憶がありますが、現在では阿多カルデラの名が主となっています。鹿兒島市の谷山インターを伊作峠方面に少し上がったところに、阿多火砕流の看板があり、県道沿いにその地層を観察できる場所があります。
8.8 万年前	阿蘇カルデラ	総噴出量 380～790km <sup>3</sup>	* 阿蘇カルデラ 4 回目の破局噴火、地球史で 2 番目と言われるほど巨大なものです。現代にこの規模の噴火が起こると、一瞬にして 700 万人の命が奪われると言われていいます。
3 万年前	始良カルデラ	総噴出量 380～430km <sup>3</sup>	* この噴火も巨大で、九州に渡ってきた旧石器人は、この噴火により絶滅したと思われる。鹿兒島県で場所によっては 30m にも及ぶ シラス と呼ばれる堆積層はこの噴火によるものです。

そして 7300 年前、鬼界カルデラ が 総噴出量 133～183km<sup>3</sup> となります。

こうしてみると、九州は幾度となく火山灰に覆われ（総噴出量、1辺の長さが数 km 以上の立方体の物質が噴き出したなど、恐ろし過ぎます）、人どころか生物が住めなくなった土地に、時間をかけ、私たちの祖先はしぶとく根をおろしていったことがわかります。またこの厳しい環境があったからこそ、世界に先駆け土器を作り、独特の宗教観、文化が育まれていったのではないかと考えを巡らせます。ここの部分については、先月 27 日、上野原縄文の森 展示館を訪ね学芸員の方と話をするなかで、多くのことがみえてきました。次号にまとめてみたいと思います。  
ところで・・・ 次の破局噴火 いつ起こるのでしょうか??? (つづく)

### 【5月11日（土） 戦没者慰霊之塔の補修が完了しました！】



コミュ協、地域の方、保護者や児童の協力を得て、戦没者慰霊之塔の補修が完了しました。ご協力いただいたみなさん。ありがとうございました。

「～姉さんは3人子供を亡くされたんだよね～」など、作業をしながらも当時を偲ぶ話が聞こえて、しみじみとした気持ちになりました。また今回、日清や日露の戦争で亡くなった方よりも、十年の役（西南戦争）で亡くなった方が多いことに改めて気づきました。土風を重んじた里の先人が、西郷さんの軍に合流したのだらうと思いました。

現代では、祖先を遡れるのは三代までという話をよく耳にします。おそらく話題にあがる名は、太平洋戦争の戦没者の方で、それ以前の方は、人々の記憶から消えて行っているかもしれません。先祖代々のお墓の碑銘を見て、ここに刻まれている方と重ならないか、ぜひ機会があるとき見比べてみてください。平和の礎（いしづえ）となった方々の名、いつまでも語り継いでいければと思います。